

岡山県営食肉市場解説 1周年を省いみて

片山 登喜夫

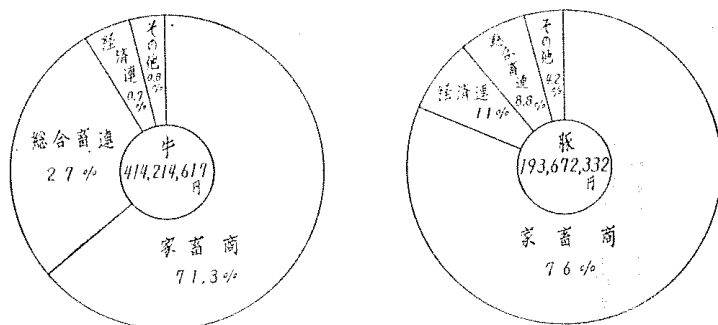
岡山県営食肉市場が全国各府県注視のもとに歴史的発足をしたのは、昭和 37 年 8 月 1 日でした。歳月の流れは早いもので、あの感激の日から満 1 ヶ月が経過した今日、静かに過去を振り返ってみると幾多筆舌に尽し難い問題があり、今更ながら新規事業の困難さが身にしみてきます。勿論このことは、単に食肉市場特有のものでなく、全て新事業の通用性であると思いますが、当場の場合、全国的に最初のころみであり、また食肉業界は幾多にわたり独専企業的色彩が濃厚であっただけに一層その感を深めたのでしょう。しかしその食肉業界は、克く時代の推移に精通され卒先協力されたことをあらためて紹介します。また各関係機関の深い理解と支援を賜り大過なく初年度の事業の遂行が出来たことに対して紙上をとおし、厚くお礼を申し上げます。僅か 1 カ年間の短い体験と計数をもって以下を記述することは誠に失礼の極みであることは承知しておりますが、こと経済界における物の考え方は我々技術者等が考えるような、なまやさしい同情的なものでなく、およそ商法に関する限りでは、極めて厳しい中で、利潤の追求に対しては人情も妥協もないことが普通事となっています。まして貿易自由化の波が日本経済を包囲しているとき、日本農業の前途は誠に厳しい困難な道が横たわっており、これは誰にでも推そくできません。私は素直にいつて日々当る畜産等の甘い言葉に自ら陶醉している場合でないことを食肉市場に来て初めて知り、そのことをお知らせすることが私の責務であると考え、ありのままを申し上げ生産者その他関係各位の奮起をお願いしたいと思います。

過去 1 ヶ年の概況

開設当初は、すべての点で問題がありました。人生の大半を生産指導に当たってきた者が、一夜にして工場管理人に 180 度の転向をしたのですから無理もないことです。また会社重役にしても、そのようなことがいわれます。それに加えて 1 番困ったことはと殺解体作業で、解体人にしても、見たことも聞い

たこともない完全機械化されたしかも流れ作業対形態とあっては、心技体の妙技の実が上るはずもなく、ときには僅かな頭数でありながら真夏の日に電気器具のもとで遅々として捗らない作業を続けたことも再三であったと思うとき只々神仏の加護を祈ったことも分って戴けると思います。しかし開場時期が恰度真夏のテキ肉の需用期であったこと、および各関係機関の方々の御協力で市場の「セリ」取引は案外好結果を得ました。牛の枝肉価格もキロ当り平均 405 円とかなりの成績を得て、上場頭数も 8 月は 197 頭を数えました。9 月の実績も 247 頭に増加し価格も 408 円となっています。しかし、残念なことは県総畜を主軸とした生産者の共同出荷が、家畜商団体出荷の 30%内外にあったこと、および出荷肉畜の質の点でも相当の差があったにもかかわらず、売参人が少ない、価格が安いとお叱りを受けたことです。だが枝肉取引のねらいは生体取引のような布呂敷に包んで中身を見せずに売ることではなく、中味売りであるから品質本位の取引であります。したがって品質が良くて、小売業者の好むタイプであることが絶対条件であるにもかかわらず、この事実を生産者が良く知らなかったことも原因しています。しかしみなさまの協力で上場頭数も次第に増加し、12 月に入るや県、総畜主催のもとに、食肉市場開設記念枝肉共進会が郡単位に、6 回にわたって開催されました。これは資質の優良な肉畜が多数出品されており、市場の発展に寄与したこと大であったと思います。

図表 A 出荷団体別取扱(支払)金額
(537.7.25~538.6.30)



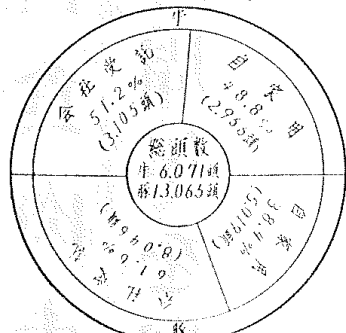
岡山畜産便り 1963.09

また県主催の第1回枝肉共進会の開催等により12月は428頭の上場をみて越年したが、昨年末の経済情勢は安外不振で、大半の割越肉が正月に持越されました。この関係で1月の上場頭数は230に急落し、そのまま6月まで300頭を突破する機会がなく、共同出荷も最低線を辿っていました。このとき県畜産課主催で、県下各農林事務所単位に各種指導諸機関を中心とした画期的な肉畜出荷会議の開催が行なわれ、3月以降は不振であった共同出荷が上場頭数の50%に上昇し、現在に至っております。しかし、資質の点では残念ながら家畜商団体の出荷分に比較して見ますと劣っていることが別表A表で分かります。次に豚について申し上げますと、豚は昭和36年末以来の大暴落の余波を受けて開設当時キロ当り平均228円前後で小売値の値下(100g当り35~40円)という豚属の危機で生産者は売り急ぎのためか、8月には533頭に上昇し、12月は、更に増加し970頭となり、価格は288円に上昇しました。もちろんご承知の畜産物安定法の制定による政府買上措置等も手伝っていますが、一番喜んだのは消費者で、豚肉の消費状況は岡山市営と畜産当時の3年平均の約3倍となりました。消費層の急増に加えて、年末以降の異状寒波等のため、大消費地では畜産振興事業団の買上豚肉の放出が行なわれました。しかし岡山市場では直接の影響はなく、大体700~800頭の線上で価格も300円前後に上昇し、6月以降の価格は320~400円と急上昇しました。開設以来出荷豚の品質は、当初は大豚、またはガリ豚が多く不揃いでしかも厚脂のもの、およびキ豚等が比較的多かったのですが、これも次第に品揃も良くなって均質化しています。なお、肥育適期を逸した大豚、また、厚脂のものが相当あることは生産者はもとより指導者ともに反省すべきであると思えます。

事業実績と価格の推移

(イ) 総と殺頭数と会社上場実績比について見ますと、B表のように総と畜頭数6,071頭に対し会社上場頭数は

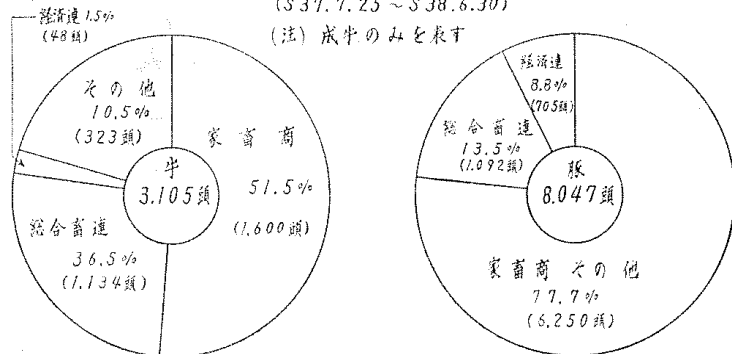
別表B 総と殺頭数に対する上場頭数割合 (537.7.25~538.6.30) (注) 成牛のみを表す



図表C 出荷団体別上場頭数

(537.7.25~538.6.30)

(注) 成牛のみを表す



3,105頭で51.2%、自家用一般と殺2,966頭で48.8%、豚は総と殺数13,065頭で、会社上場数は8,046頭で61.6%、自家用の一般と殺数5,019頭で38.4%です。これを岡山市営と場における公用廃止前3年平均のと殺数は牛で5,300頭、豚で4,800頭からすれば全体的にみて牛は漸増、豚は3倍増で驚異的数字となり、豚肉の大衆化が非常に目立って来ています。

(ロ) 会社上場頭数に対する出荷割合について見ますと、C表のように出荷者別上場頭数は、牛で家畜商団体が51.5%、県総畜が36.5%、県経済連1.5%、その他個人10.5%、豚では家畜商その他が77.7%、県総畜が13.5%、県経済連8.8%となっています。この表を見て以外であり残念なことは、生産者団体に全生命をかけて期待した共同出荷数が、家畜商団体出荷を相当下廻っている現実が見られます。ことに豚においては、常識的には考えられない数字が家畜商によって示められています。

(ハ) C表の出荷団体別支払金額を見ると、牛では家畜商団体が71.3%、総合畜連27%、県経済連0.9%、その他0.8%、豚では家畜商団体76%、県総畜8.8%、県経済連11%、その他4.3%、総金額は牛で4億14,21万4,617円、豚では1億93,67万2,332円でした。

このように3表について総合的検討を加えて見ますと次の反省資料が得られます。

(イ) A表では所得倍増計画と相まって食生活の改善向上が急速に伸びており、しかもそれは特権階級のものでなく一般大衆の需要の伸びが大きいように思われます。

(ロ) B表では前記したとおり、生産者の系統出荷が相当あるものと期待していたが、案外な数字に驚いています。前近代的取引から脱皮して正味取引と

岡山畜産便り 1963.09

いか実質取引である枝肉販売を中心に売参人はもとより、消費者からも喜ばれる肉畜の増産確保に実を入れたいと思います。

(ハ) C表で感ずることは良質の肉畜は生体市場に流れている事実を物語るもので、共同出荷の肉畜は頭数的にも、また資的にも劣っていることが支払金額の上で証明されていることは、まことに遺憾ですが、将来に備えて肉畜取引の健全化を、更に認識と努力の上に築き上げていく必要があると思います。

価格の推移

次の推移表について見ると、牛は8-9月を最高として、ゆるやかな半円状になって、7月まで下降しているが、8月は昨年9月よりやや上昇して売れゆきも活発となってきています。

豚は8月以降やや鋭角的な上昇線で越年し1、3、4月は、やや弱く、5月で持ちなおし、以後は上昇し、7、8月に至っては平均380円前後となり、相当数のものは400円以上で取引されています。

出荷上特に留意すべき点とその対策

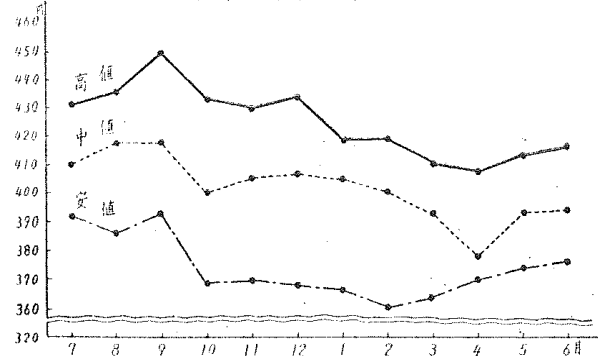
(1) 市場価格形成

市場取引価格の優位性については、私が申上げるまでもなく肉質、重量、脂肪の蓄積と色沢等によって枝肉の価格が決定されます。巷間には出荷者の顔や、売参人の数により価格が左右されるということが伝えられもしますが、余程のことがない限りあり得るものでないと思はれます。ことに厳しい経済界において利潤を追求して生きる商人心理は私達の考えるような私情や同情は考え得るすべもないと思はれます。出荷者も枝肉の質により勝負しなければなりません。というのは枝肉市場においては、生体取引のような品種、性別の差別はなく、中身を割った正味取引です。以上、肉質本意であり、品質性別はその次に考えるべきものがあるからです。

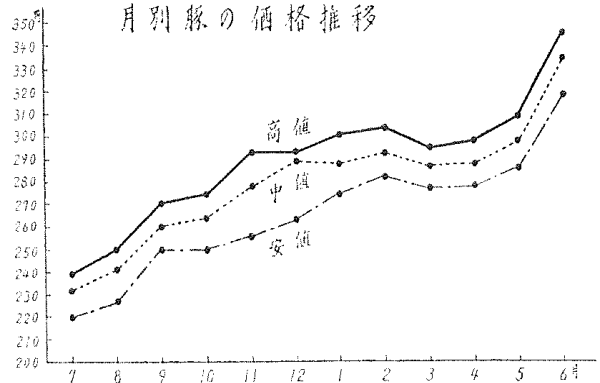
(2) 高級肉と大衆肉世どちらを選ぶか

この問題は、肥育設計上もっとも大切なことである。最近の食肉事情から言って、高級品も当然必要であるが生産者の所得、すなわち利潤の点では大衆肉を奨励したいと思いますし、またこれは売参人のすべてがそれを望んでいます。岡山市場における高

月別去勢牛の価格推移



月別豚の価格推移



級肉は、中小都市の宿命から見ても消費層に限度があります。高級肉の規格は、枝肉重量において240kgから280kgの範囲内で、肉質、脂肪のサシが最高のものであることが条件となっており、このような高級品作出にあたっては、肥育素牛の選定が先決問題であり、その選定においても、今、直ちに決定するというような条件にもないので、困難性があると思はれます。また、価格も高価でしかも飼育管理技術に相当の年月を経た特技と、長期肥育によってのみ完成されるもので、一種のお家芸的存在ともなっています。価格も高いが所要経費も高く実用的ではないように考えられます。これに対し一般大衆肉は日とともにその需要が増加している現状からして、生産に頭打ちがないということが大きな強みになっています。大衆肉として売参人の最も希望するタイプは枝肉重量220kg~240kg以内で、肉質脂肪ともに良好であって、価格はkg当り大体360円~400円前後のものとしてされています。もちろん価格は高いほど生産者にとっては良いわけですが、次の点で高級品以上の利潤を追求することもできます。

①大衆向けの肉牛を育成するには、比較的素牛の選定が容易であり、しかも婦女子でもけっこう管理ができるということです。1頭からの利潤は少ない

岡山畜産便り 1963.09

という面はありますが、肥育廻転が早いので年間数頭は出荷できるので通算すると案外利潤は上る計算になります。しかし、この場合に留意しなければならぬことは、飼養管理面で常に関係技術者と密接な連絡を取り、最善の方法を取ることが望ましいと思います。

②最近乳牛の出荷が相当見受けられますが、その枝肉の質、歩止り等からして最低の条件にあるものが多いのですが、中には一見和牛メスに見誤るようなものも見受けられます。そしてその価格も前記のとおり和牛なみで、取引されています。この事実を見ると常に考えることは廃用乳牛の場合（結核病牛、ブルセラ牛）等の病牛は別として、繁殖障害牛は1-2ヵ月間程度肥育すれば300円台での取引は可能であると思われます。しかし現状は余りにも乳牛であると自己紹介的で、一点の脂肪すら見受けられないスルメイカのような状態にあるものが多いようです。これは折角の肉資源を無にするものであり、取引に当たっても発句値も出ない始末ですので、短期の肥育で利用価値の増加を工夫することが望ましいと思われます。

（3）共同出荷と時期

系統機関による共同出荷の利点は、全体計画による適正継続出荷を意味するものです。市場の信頼性を高めると同時に、適正円滑な取引と価格維持をはかる上にも系統機関を通じての出荷は好結果を生むものと考えます。出荷時期を大別して、短期および長期的好期があると思われます。短期的なものは、毎月8日は会社の大手開催日であります。また長期的には8-9月、年末、3-4月と旧来から慣習的好期もあるようですが、常設枝肉市場での取引は現物本意の取引で行なわれておりこれはあくまでも、そういう慣習的好況もあるのだということに止めておくべきでしょう。

（4）出荷時期

遠隔地からの出荷は別として共同出荷の場合、関係者の市場立会等からいつて翌日廻しを極力かけていますが、作業順位の関係で翌日廻しの例もあるので、市場到着時間は遅くとも9時までに引付けをしなければなりません。なお、遠隔地の場合は前日に出荷できるような用意が欲しいと思います。特に8

の日等は相当出荷頭数があるので、前日、または早期出荷計画を樹立しておくべきでしょう。

（5）肉豚出荷上の留意点

市場における取り引き要領は、牛の場合と同様であるので省略し、簡単に豚枝肉の概況を申し上げますと、岡山市場開設当初は、出荷豚の規格も雑多で特に大貫物が割高のように見受けられましたので大豚が比較的多く出荷されてきました。またガリ豚、厚脂キ豚等も散見されましたが次第に出荷肉豚の粒揃いも良好となって来ています。これは大変喜ばしいことであります。しかし、なお今日までやや大貫物に近いものや厚脂のものがかなり見受けられます。最近の取引の概況は上物規格は、1頭当り枝肉重量は50kg~65kg以内のもので、背脂肪も2~3cm以内のものが売参人の最も好むものとなっています。またその上下のものが格落相場となっています。最も嫌われるものは厚脂とキ豚であります。このことは当然飼育管理の問題であります。養殖豚の上りは別として、大豚厚脂の傾向にあることは無駄な日数と飼料を使って豚価の値下げ運動をしていると言われても止むを得ません。これは養豚家の生命である資本廻転速度の原則に反するもので出荷適期の判定と、飼料の効率化について技術者の濃密なる指導のもとに即時改善することが急務であると思います。厚脂の場合キロ当平均50~60円値びらきは良い方で、中には100円も安いものが見受けられます。これでは豚価がキロ当り400円と高騰しても、所得倍増どころか骨折損のくたびれ儲けとなりかねません。その他については大体牛と同様であるので省略します。

重ねていいたいことは買手側が、競争してセリ上げるような利用価値の高い肉畜の増産出荷をしたいものです。

食肉市場の本年度重点施策

（1）枝肉規格取引実施

食肉の生産流通、および消費の改善合理化の円滑な推進をはかるために、日本食肉協議会が中心となって、牛豚の枝肉規格付事業を、既に中央卸売市場を対象に行なっています。（現在豚のみ）

本年度から新に四日市市場と、岡山市場が追加されましたので会社ならびに生産者団体等と協議して、

岡山畜産便り 1963.09

この事業の実施に踏切り、市場の公益性を高めるとともに将来事業団体買上の対象市場として、生産者の所得倍増につとめてゆく方針です。

(2) 京阪神方面の市場開拓

ようやく共同出荷も軌道に乗り、その出荷量も岡山市内の需要量を上廻る実情ですので、会社ならびに生産者団体の協力を得て、食肉の最需期を目標に京阪神方面へ枝肉を出荷できるよう枝肉輸送用大型冷凍車の購入等、目下会社側と折衝中です。

(3) と殺解体技術共励会の実施

と殺解体人の衛生知識の向上と併せて解体技術の練磨向上を目的として、解体技術の共励会を9月に実施します。

(4) 食肉の料理講習会

生活改善普及員を中心とした食肉および内臓料理講習会を実施し、食生活の改善普及に努める方針です。

(5) 枝肉共進会の開催

昨年と同様、食肉市場において枝肉共進会を開催して、枝肉業界の進展を図る方針を立てています。

食肉市場将来計画とその方針

食肉市場の将来計画については近代社会機構に即応した流通対策が必要で、現在の市場を中心に関連産業を附設する考えです。その1は精肉のカット工場、第2は豚の内臓加工処理工場等の会社を設置して、食肉市場本来の使命となっている生産者の所得倍増を、消費者への新鮮低廉な食肉の供給を行なうようにしたいと思っております。

最後をお願いとして、何を申しましても食肉市場は県民全体の施設であります。遠慮なくご来場いただき、業務についてのご高説を賜り良き場風と、市場の繁栄のため将来なお一層のご指導とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

(岡山県食肉市場場長)